

お話クイズをつくろう

[くじらぐも (光村図書)]

第1学年 指導者 那須芳子

本単元で育成する資質・能力 論理的思考力・表現力・主体性

単元について

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」「ア 語句のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」「エ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」を受けて設定したものである。

本教材は、体育の授業時間に、空に現れたくじらぐもに子どもたちが乗って旅をするという現実と空想との世界がある話である。会話文を含むくじらぐもと子供たちのやり取りをより豊かに想像することができ、同じ1年生のお話であり、共感しながら楽しんで読むことができる。

児童の実態

国語アンケートによると、読書をするのが楽しい、いろいろなことを考えながら読んでいる等、全て肯定的に答えている。

平均点 読む 98点 言語 95点

読書に集中すると、内容を理解しあらずじを話すことができる。

日頃から自分の意見を進んで話すが、改まった場になると、緊張して発言できないときがある。

集中して根気よく最後まで取り組むことが課題である。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「お話クイズを作ろう」と設定し、読み取った話の内容について問答するという目的意識を持たせる。音読をしっかりとさせ、動作化することを通して場面の様子を豊かに想像させたい。設定した「ナゾ」を解きながら内容をよく理解させる。登場人物の行動や会話の順序よく書いてあり、その動きや言葉が何を表しているのか考えることができるので、問題づくりにつなげたい。また、同じ作者の作品や同じ年頃の子供が主人公になった話を並行読書させ、意欲的に読書活動をさせたい。

第一次では、活動目標を「お話クイズを作ろう」と設定し、話の大体をつかみ、物語の「ナゾ(めあて)」を設定させ、解決していく中で読みを深め、クイズを作るという学習の見通しをもたせる。

第二次では、物語の展開に沿って、会話文を含むくじらぐもと子供たちのやり取りを役割読みや動作化を取り入れ、より豊かに想像し、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、「ナゾ」を解いていく。

第三次では、クイズにしたい本を選び、「お話クイズ」を作る。作った「お話クイズ」を2年生と交流する。

単元の目標

- 物語を読んで内容を理解し、進んでお話クイズを作ろうとしている。 【関・意・態】
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。 【読むこと ウ】
- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うことができる。 【読むこと オ】
- 文の中における主語と述語との関係を理解することができる。 【言語事項イ(カ)】

単元でつける力

- 書いてある内容を正確に理解したり確認したりする力。
- 読み取った内容をもとにして、問いにしたいところを選び、考えを文章にまとめ発表する力。

そのための言語活動

読んだ本や文章の内容等についてクイズを作り、発表する。

評価規準

教科【国語科】		育成しようとする 資質・能力
関心・意欲・態度	読む能力 (★論理的思考力)	
物語を読んで内容を理解し、進んでお話クイズを作り、発表しようとしている。	★場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読んでいる。 読み取った内容をもとにして、問いにしたいところを選び、考えを文章にまとめ発表している。	言語についての知識・理解・技能 文の中における主語と述語との関係を理解している。 【論理的思考力】 登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、場面の様子の変化に気付いている。 【表現力】 聞き手を意識して、自分の思いや考えをまとめて、問題を作り、はっきりと発表している。 【主体性】 進んで読書をして、お話クイズを作って発表している。

本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

【論理的思考力】

活動目標を「お話クイズを作ろう」と設定し、読み取った内容に合ったクイズを考えさせる。内容の正しい理解を図るため、「くじらぐも」の学習では語のまとまりに気を付けて暗唱できるくらいしっかり音読をさせる。設定した「ナゾ」を解きながら、各場面の様子の変化したり、登場人物の行動が変化したりしていくことをつかむ。その様子を動作化させることを通して、豊かに想像させながら読みを深めたい。

お話クイズは、本や文章の内容だけでなく、構成や表現・叙述について問いにすることができる。並行読書した本からクイズにしたいところを自分で選び、理由など自分の思いや考えをまとめさせる。文章の中の言葉や文を書き抜くなど、主語や述語を意識して問題文を作らせる。

【表現力】

聞き手を意識して、問題を作り、最後まではっきりと話すようにさせる。改まった場になると、自分の思いを伝えることに課題があるので、自信をもって伝えられるように繰り返し練習をさせる。

クイズを発表する時は、発表の方法を工夫しながら練習をさせる。聞き手をひきつけるよう問いかけをさせたり、声の大きさや間の取り方、話す速さ、ジェスチャー等を工夫させたりする。

授業では、答える相手の反応を見ながらヒントを出すようにさせたい。

【主体性（自分から行動する力）】

単元の「お話クイズを作る」という活動の目的意識を持ち、言葉や内容に気を付けながら読書させる。同じ作者の作品や同じ年頃の子供が主人公になった話を進んでできるだけたくさん読み、好きな話を選ばせる。作ったクイズを進んで発表させる。

研究仮説にかかわって

【思考の「見える」化】

児童の思考を「見える」化するために、ノート指導では、物語の「ナゾ」を解決するために、登場人物の行動や会話を中心に、文章の中の大事な言葉や文を書いたり、場面の様子が分かる言葉や文を書き抜いたりさせる。内容の理解を深めるために自分の考えを書かせる。

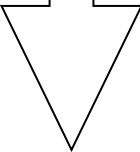
【相手や目的等の「意識」化】

本単元では、言語活動を「お話クイズを作ろう」と設定している。授業では、2年生とクイズを出し合う。聞き手を意識して、分かり易く問題が作られているか、答えが分かるように伝えられたか反応を見る等して、考えさせる。また、全校児童が読めるように掲示する。誰もが楽しめるように問題を考えたりかいたりする工夫をさせたい。

指導計画 (全 11 時間)

次	時	学習活動	評価			
			関	読	言	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 「くじらぐも」に関心を持ち、学習課題「お話クイズをつくろう」を設定し、学習計画を立てる。 教材文を読み、物語の大体をつかむ。	◎	○		物語の大体を捉え、学習課題から学習の見通しを持ち、学習計画を立てている。 (ノート・発言)
	2 3	情報の収集 整理分析 「くじらぐも」を読み、場面の様子を想像し、ナゾを整理する。		◎	○	本文を読んで、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート・発言)
二	4	情報の収集 整理分析 ナゾ①「子どもとくじらぐもはどんな会話をしたかな」について考え、解決する。		◎	○	物語の「ナゾ」について、想像を広げて答えを見つけている。 (ノート・発言・音読)
	5	情報の収集 整理分析 ナゾ②「子どもたちはくじらぐもにのるまでにどんなことをしたかな」について考え、解決する。		◎	○	物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。 (ノート・発言・態度)
	6	情報の収集 整理分析 ナゾ③「くじらぐもにのって、空を旅しながらどんなことを話したかな」について考え、解決する。		◎	○	物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して答えを見つけている。 (ノート・発言・書き込み)
	7	まとめ・創造・表現 ナゾ④「別れた後、子どもとくじらぐもはどんなことを言ったかな」について考え、解決する。		◎	○	物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して答えを見つけている。 (ノート・発言・書き込み)
	8	情報の収集 整理・分析 「くじらぐも」の話から、クイズを考える。		◎	○	「くじらぐも」の話についてクイズを作ることができる。 (ノート・クイズカード・発言)
三	9 10	情報の収集 整理・分析 話を選び、クイズづくりをする。	◎		○	好きな本や文章を選び、クイズを作ることができる。 (ノート・クイズカード・態度)
	11	まとめ・創造・表現 実行 作ったクイズを発表することができる。 お話クイズ大会をする。	◎	○		作ったクイズを発表することができる。 (態度・発言・ノート)

同じ作者(中川梨枝子)等のお話の本の並行読書



お話クイズを作ろう

〔お手紙（光村図書）〕

第2学年 指導者 那須芳子

本単元で育成する資質・能力 論理的思考力・表現力・主体性

単元について

本単元は、学習指導要領「C読むこと」「A語のまとまりや言葉の響きに気を付け音読すること。」
「ウ場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」「オ文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」を受けて設定したものである。

本教材は、これまで手紙をもらったことがなく悲しんでいたがまくんが、友達のかえるくんからの手紙を待つことで幸せな気分になった話。登場人物の行動や言葉がユーモラスなお話で児童にとって楽しく読むことができる。

児童の実態

国語アンケートによると、読書をするのが楽しい、いろいろなことを考えながら読んでいる等、全て肯定的に答えている。

大きな声で感情をこめて音読することができる。

単元テストでは、文章の内容を理解して正しく答えられるようになってきているが、言葉の意味や漢字の表記等言語での間違いが見られる。

平均点 読む98点 言語95点
長文の理解や読み取ったことを簡潔に分かり易く伝えることに課題がある。

指導にあたって

行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれているので、指導にあたっては、活動目標を「お話クイズを作ろう」と設定し、読み取った話の内容について問答するという目的意識を持たせる。音読をしっかりとさせ、設定した「ナゾ」を解きながら内容をよく理解させる。登場人物の行動や会話が順序よく書いてあり、その動きや言葉が何を表しているのか考えることができるので、問題つくりにつなげたい。また、図書館司書の協力で選んだ「がまくん、かえるくん」シリーズやアーノルド＝ローベルの図書を並行読書させ、意欲的に読書活動をさせたい。

第一次では、活動目標を「お話クイズを作ろう」と設定し、話の大体をつかみ、物語の「ナゾ（めあて）」を解決していく中で読みを深め、クイズを作るという学習の見通しをもたせる。

第二次では、物語の展開に沿って、「がまくん」と「かえるくん」の行動がどう変わっていくか、友達同士の心の交流に共感を持って読み取らせたい。場面の様子について、役割読みや動作化を取り入れ、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、「ナゾ」を解いていく。

第三次では、並行読書した本の中からクイズを作る本を選ばせる。読み取ったことを活かして、「お話クイズ」を作る。作った「お話クイズ」を1年生と交流する。

単元の目標

- 物語を読んで内容を理解し、進んでお話クイズを作ろうとしている。 【関・意・態】
- 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができる。 【読むこと ウ】
- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うことができる。 【読むこと オ】
- 文の中における主語と述語との関係を理解することができる。 【言語事項イ（カ）】

単元でつける力

- 書いてある内容を正確に理解したり確認したりする力。
- 読み取った内容をもとにして、問いにしたいところを選び、考えを文章にまとめ発表する力。

そのための言語活動

読んだ物語の本や文章の内容等についてクイズを作り、発表する。

評価規準

教科【国語科】			育成しようとする 資質・能力
関心・意欲・態度	読む能力 (★論理的思考力)	言語についての 知識・理解・技能	
物語を読んで内容を理解し、進んでお話クイズを作り、発表しようとしている。	★場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読んでいく。 読み取った内容をもとにして、問いにしたいところを選び、考えを文章にまとめ発表している。	文の中における主語と述語との関係を理解している。	【論理的思考力】 登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、場面の様子の変化に気付いている。 【表現力】 聞き手を意識して、自分の思いや考えをまとめて、問題を作り、はっきりと発表している。 【主体性】 進んで読書をして、お話クイズを作って発表している。

本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

【論理的思考力】

活動目標を「お話クイズを作ろう」と設定し、読み取った内容に合ったクイズを考えさせる。文を読んで理解することに課題があるので、内容の正しい理解を図るため、「お手紙」の学習では語のまとまりに気を付けて暗唱できるくらいしっかり音読をさせる。設定した「ナゾ」を解きながら、各場面の様子の変化したり、登場人物の行動が変化したりしていくことをつかむ。その様子を**動作化させることを通して**、豊かに想像させながら読みを深めたい。

お話クイズは、本や文章の内容だけでなく、構成や表現・叙述について問いにすることができる。並行読書した本からクイズにしたいところを自分で選び、理由など自分の思いや考えをまとめてさせる。簡潔に分かり易く伝えることに課題があるので、文章の中の言葉や文を書き抜くなど、主語や述語を意識して問題文を作らせる。

【表現力】

聞き手を意識して、問題を作り、最後まではっきりと話すようにさせる。

クイズを発表する時は、発表の方法を工夫しながら練習をさせる。聞き手をひきつけるよう問いかけをさせたり、声の大きさや問の取り方、話す速さ、ジェスチャー等を工夫させたりする。

授業では、答える相手の反応を見ながらヒントを出すようにさせたい。

【主体性】

単元の「お話クイズを作る」という活動の目的意識を持ち、言葉や内容に気を付けながら読書させる。「がまくん、かえるくん」シリーズやアーノルド＝ローベルの図書を進んでできるだけたくさん読み、本を選ばせる。作ったクイズを進んで発表させる。

研究仮説にかかわって

【思考の「見える」化】

児童の思考を「見える」化するために、ノート指導では、物語の「ナゾ」を解決するために、登場人物の行動や会話を中心に、文章の中の大事な言葉や文を書いたり、場面の様子分かる言葉や文を書き抜いたりさせる。内容の理解を深めるために自分の考えを書かせる。

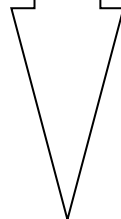
【相手や目的等の「意識」化】

本単元では、言語活動を「お話クイズを作ろう」と設定している。授業では、1年生とクイズを出し合う。聞き手を意識して、分かり易く問題が作られているか、答えが分かるように伝えられたか反応を見る等して、考えさせる。発表の方法を工夫させる。また、全校児童が読めるように掲示する。誰もが楽しめるように問題を考えたりかいたりする工夫をさせたい。

指導計画 (全 11 時間)

次	時	学習活動	評価			
			関	読	言	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 「がまくんとかえるくん」シリーズに関心を持ち、学習課題「お話クイズを作ろう」を設定し、学習の見通しを持つ。「お手紙」を読み、物語の大体をつかむ。	◎	○		物語の大体を捉え、学習課題から学習の見通しを持ち、学習計画を立てている。 (ノート・発言)
	2	情報の収集 整理・分析 教材文を読み、人物の行動や会話から、ナゾを整理する。		◎	○	本文を読んで、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート・発言)
二	3	情報の収集 整理・分析 ナゾ①「なぜお手紙をまつ時間がかないのかな」について考え、解決する。		◎	○	物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。 (ノート・発言)
	4	情報の収集 整理・分析 ナゾ②「なぜかえるくんは家へ帰らなくちゃ、しなくちゃいけないことがあると言ったのかな」について考え、解決する。		◎	○	物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。 (ノート・発言)
	5	情報の収集 整理・分析 ナゾ③「かえるくんはどんなふうにゆうびんうけをのぞいているかな」について考え、解決する。		◎	○	物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。 (ノート・発言)
	6	情報の収集 整理・分析 ナゾ④「かえるくんが手紙を出したのを知ったがまくんは何を言うかな」について考え、解決する。		◎	○	物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。 (ノート・発言)
	7 8	まとめ・創造・表現 登場人物の言葉や行動からおもしろかったところや好きなところ等の感想をまとめ、クイズを考える。		◎	○	「お手紙」の話についてクイズを作ることができる。 (ノート・発言・クイズカード)
三	9 10	情報の収集 整理・分析 並行読書している本から話を選び、クイズづくりをする。	◎		○	好きな本や文章を選び、クイズを作ることができる。 (ノート・クイズカード・態度)
	11	まとめ・表現 実行 お話クイズ大会をする。	◎	○		作ったクイズを発表することができる。 (態度・発言・ノート)

「がまくん、かえるくん」シリーズの本の並行読書



本時の学習

【1学年 本時の目標】

○くじらぐもにのって、空を旅しながら子どもたちはどんなことを話したかを想像することができる。

【準備物】

掲示用の文や登場人物の絵、

【2学年 本時の目標】

○「かえるくんが手紙を出したのを知ったがまくんは、なんと言うかな。」について考え、発表することができる。

【準備物】

掲示用の文や登場人物の絵、模造紙、ペン

○評価規準【教科】 (評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】	指導上の留意点	学習活動		学習活動	指導上の留意点	○評価規準【教科】 (評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】
<p>○読む 読み取った場面の様子から想像を広げて、登場人物がどんなことを話したか考えることができる。 (発言・書き込み)</p> <p>★【論理的思考力】 空を旅する様子について想像を広げながら子ども達が話していることを考えている。 (発言・書き込み)</p> <p>★【表現力】 くじらと子ども達が空を旅する様子が伝わるように動作をしながら台詞を発表している。 (発言・態度)</p> <p>★【主体性】 進んで話したりクイズを作ったりしている。 (発言・行動観察)</p>	<p>・全文を読んで、登場人物の行動や場面の様子について想起させる。</p> <p>子ども達は、くじらぐもにのって空を旅しながらどんなことを話したかな。</p> <p>・海や村、町へと旅しながら、何を見て、どんなことを話したか叙述から想像を広げさせる。 ・動作化もさせて、想像した言葉を書かせる。</p> <p>・本時の場面のくじらや子ども達の行動から問題を考えさせる。 ・問いの文の主語と述語に気を付けさせる。</p> <p>・自分の考えた問いをはっきりと発表させる。</p> <p>・学校に帰って別れた後、子どもたちとくじらぐもはどんなことを言ったか考えることを確かめる。</p>	<p>1 本文を音読する。 「さあ、およぐぞ。」 くじらは、元気いっぱいすすんでいきました。 うみのほうへ むらのほうへ まちのほうへ みんなは、うたをうたいました。 空は、どこまでもどこまでもつづきます。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>3 くじらぐもにのって空を旅する子ども達の様子を想像し、台詞を書く。 ・よくみえるなあ。 ・ひろいなあ。 ・でんしゃやふねがみえる ・いえが小さいなあ ・山もかんたんにこえている ・たのしいなあ</p> <p>4 お話クイズを作る。</p> <p>5 クイズを発表する。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p>		<p>1 本文を音読する。 ・P11 から P16 一人読み</p> <p>・P14 から P16 1年生と役割読み手紙を待っている場面を、様子を想像しながら音読する。 ㊦「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」 ㊧「きみが。」 ㊨『親愛なるガマガエルくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。』</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>かえるくんが手紙を出したのを知ったがまくんは、何と言ったかな。</p> <p>3 手紙の内容を聞いたがまくんが、「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」の後、何と言ったか考える。 ・かえるくんが手紙を書いてくれてうれしいな。 ・かえるくんは親友とってくれているんだ。 ・かえるくんありがとう。きみはやさしいね。</p> <p>4 考えた言葉を模造紙に書く。</p> <p>5 考えた言葉を付け加えて役割読みをする。 ・P14 から P16</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p>	<p>・かたつむりが手紙を持って来るのを待っているかえるの行動や言葉を確認させる。</p> <p>・1年生はかえるくん、2年生はがまくんになって、場面の様子が表れるように音読させる。</p> <p>・本文の叙述をもとにして、がまくんが何と言ったか、気持ちが表れる言葉を考えさせる。 ・かえるくんに対して言った言葉も考えさせる。 ・主語と述語に気を付けさせる。</p> <p>・1年生によく分かるように提示できるように言葉を大きく書かせる。</p> <p>・始めのように役割読みさせる。 ・場面の状況と付け加えた言葉が合っているか、自分の考えた言葉をはっきりと話すようにさせる。 ・「お手紙」の話の感想をまとめ、クイズを考えることを確かめる。</p>	<p>○読む 想像を広げて、がまくんの言った言葉を考えることができる。 (発言・ノート)</p> <p>★【論理的思考力】 本文の叙述をもとにして、場面の様子を想像しながら言葉を考えている。 (書き込み・ノート)</p> <p>★【表現力】 自分の考えたことが伝わるように工夫して発表している。 (発言・態度)</p> <p>★【主体性】 進んで音読したり言葉を書いたりしている。 (発言・行動観察)</p>